

《お知らせ》

★会員情報の変更について

新年度になり新しい生活をスタートされた方もいるかと思いますが、転居や結婚などに伴い会員情報の変更がありましたら日本助産師会事務局ならびに香川県助産師会（すこやか助産師センター）までお知らせください。



★教育委員会からお知らせ

継続教育励行者の認定ポイントについて変更されました。5年継続して毎年安全4ポイント以上、一般12ポイント（平成29年度までは安全2ポイント、一般6ポイント）以上を取得した会員は、日本助産師会に申請すると「継続教育励行者」の認定及び特典（研修費割引）が受けられます。

★香川県助産師会ホームページについて

現在、**ホームページが更新できない状況です**。更新可能な状況になり次第お知らせいたします。研修情報や各種お問い合わせは助産師会事務局までお願い致します。

★香川「いいお産の日」20年誌発行について

昨年度から作成委員会で検討してきました冊子が、ほぼ完成いたしました。皆様には総会にてお渡しいたします。ご協力いただいたイベントを振り返り今後への思いを深めていただけたら嬉しいです。

★平成30年度（公社）日本助産師会中国四国助産師研修会 I N高知県 開催のお知らせ

平成30年9月29日（土）～30日（日）高知県高知会館において開催されます。高知城下で中四国の助産師が集まり交流を持つ貴重な時間です。是非、県内助産師が多くご参加頂きますようお願い致します。

★いいお産の日実行委員会のお願い

5月12日（土）9:30～いいお産の日西会場 第1回実行委員会（岡田コミュニティセンター）

5月12日（土）10:00～いいお産の日高松会場 第1回実行委員会（いのちの応援舎）

今年もご協力よろしくお願ひいたします



4・5・6月の研修会及び行事

日時	研修会・行事・講師等	場所
5月13日（日） 9:30～	平成30年度 一般社団法人香川県助産師会通常総会	岡田コミュニティセンター
5月13日（日） 13:30～16:30	「乳児・新生児のアレルギーとスキンケア」 一般② 「空保小児科医院」小児科医師 平場一美	岡田コミュニティセンター
6月10日（日） 9:30～12:00	EPDSの活用に関する情報交換と事例検討 香川県助産師会会長 宮本政子	いのちの応援舎
7月1日（日） 9:30～12:30	産科出血とその対応及び産婦人科診療ガイドライン産科編2017 一般② 香川大学 田中宏和	いのちの応援舎

※一般・安全ポイントは申請中ですので、決定次第とらうべ通信にてお知らせいたします

★その他の研修会お知らせ

◎4月20日（金）『不妊・不育症について』 講師：塩田敦子先生 場所：香川県看護協会 当日参加可

◎4月28日（土）香川県立保健医療大学助産学専攻科主催 第2回教育講演会&助産師交流会

『助産師に必要な倫理～これからの助産師に求められる役割と活動～』

公益社団法人 日本助産師会会長 山本詩子先生 申し込み：助産学専攻科（竹内）4/20まで

◎5月20日（土）第9回日本母体胎児医学会 産科超音波セミナー

申し込みは日本母体胎児医学会ホームページより申し込み受付中です。

とらうべ通信

2018.4月号
No.87

発行所：（社）香川県助産師会 高松市春日町1176

発行責任者：宮本 政子 ☎：087-844-4131 FAX：087-844-4130

会長挨拶

会長 宮本 政子

今年の冬は全国的に寒波・大雪に見舞われ厳しいものとなりましたが、桜の開花予想は意外に早く、本誌が会員の皆様の所に届く頃には満開になっているかもしれませんね。

香川の母子のために日々ご尽力いただき、心より御礼申し上げます。

さて、東日本大地震が発生して7年を迎え、新聞テレビで被災地の現状が連日報道されました。復興が進んでいる一方で、今もなお多くの人々が深い悲しみの中で暮らしている様子を拝見し、回避できない災害の恐ろしさを痛感する毎日です。近年は地震以外の災害も多発しており、日本助産師会でも災害時の支援体制について検討しているところです。

2月に中四国地区の代表者会議があり、その時の中心議題も災害発生時の県レベルの連携や支援体制の検討でした。香川県助産師会としては、「ほっと相談室」のエリアごとに災害時の母子支援を行うことや、現在開業している助産院等を中心に一時母子避難所を定めるなど少しずつ支援方法の検討が進んでいます。しかし、具体的な準備物や行動など詳細については検討の余地が多く、平成30年度の検討課題としたいと考えています。特に他県との協力体制については全く具体化できておらず会員の皆様の御知恵をお借りしたいので宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

その他、平成29年度の新規事業である第11回から第20回までの「いいお産の日」の活動を記念誌とする事については、編集が概ね終了しました。近々御手元に届くと思いますので、楽しみにお待ちいただければと思います。

会長に就任しもうすぐ1年が経とうとしていますが、解らないことばかりで多くの方にご迷惑をおかけしています。もっと楽しみながら助産師会の運営に参加できる事を平成30年度の目標にしたいと思います。

最後に昨年総会でのご意見により、平成30年度は岡田コミュニティセンターで総会を行います。遠くなる方近くなる方様々と思いますが、是非ともご参加を頂きますようお願いいたします。



推薦委員会からお知らせ

H30年5月13日（日）総会において30年度の役員改選を行います。

《候補者名》

財務担当 中橋 尚子（新）

監事 鎌田 千代子（現）

推薦委員 原田 好美（新）

香川 加代子（新）

小松 千秋（新）



研修会報告

新生児蘇生法 スキルアップコースを受講して

報告) 吉田真理子 (四国こどもとおとなの医療センター)

平成30年1月7日(日)、新生児蘇生法のスキルアップコースを受講しました。様々な施設や地域から参加があり、NCPR 修了認定者を対象とした継続学習支援のための3時間のコースでした。前半の講義では新生児蘇生法の復習を行い、後半の実技では蘇生手技の実習とシナリオ実習を通して学びを深めました。

一度資格を取得して医療現場で実施していても、細かい基準などはあいまいになっている点があり、こういった機会に学び直しができることで知識の定着につながると思いました。また人工呼吸や胸骨圧迫などなかなか実践機会がない手技もシナリオ実習を通して、迅速な判断を行い実施することを学びました。また他施設でどんなふうに行われているか聞くこともでき、他施設の方との交流ができたことも助産師会の研修ならではの感想です。今回学んだことを生かして、安全な分娩を介助できるように努力したいと思います。



母子保健・医療従事者研修会を受講して その1～妊産褥婦のメンタルヘルス～

報告) 田所由紀子

現在、ほとんどの自治体のこにちは赤ちゃん事業において「エジンバラ産後うつ質問票」が活用されています。高得点の母親にしばし遭遇します。「何分くらいなら泣かしてもいいですか?」「泣き止まないといらいらする」「生まれたばかりのパンダの赤ちゃんを渡されて育てろ!」と言われていたようだ。子どもを産み育てることは、初めての経験ばかり。手こずることも多く、戸惑うことも当然です。人間、得手不得手はあるのが当然。そんな時は、そばにいてくれる寄り添ってくれるサポートやフォローしてくれる人がいてくれたらどれだけ安心できるでしょうか。そして我が子をどれだけ可愛いと思えるのでしょうか。真鍋貴子先生の講演の中で、「医療保健関係者の情報の共有化が大切である」とおっしゃっていたように、私たち地域で活動する助産師においても医療・行政関係者と協力し合い連絡を取りながら母親をサポートしていく必要があると感じました。子どもを可愛く、愛しくギュッとしたくなるような、子育ては大変だけど楽しいと思える母親が増えると嬉しいと思います。こにちは赤ちゃん訪問は、一期一会が多いですが母親にとって安心できる存在になればと願っています。がんばれ!助産師!!



その2～新生児マス・スクリーニングにおける早期発見、早期治療の重要性について～

報告) 真鍋由紀子

新生児マス・スクリーニングの歴史から現状についてお話し下さり、現在、19項目の疾患について検査が出来る。その中でAランクに規定されている13疾患については緊急に医療機関受診が必要な事例を挙げて強調されました。午後には検査機関から精密検査必要の連絡があり、受けた者が明日の受診で良いだろうと判断し、翌日対応医療機関に受診し、アンモニア値が高くなり命に係わる状況に陥ったケースの説明がありました。その後の対策として「至急、本日で下記医療機関に連絡を取り受診するよう保護者に説明をお願いします」というFAXが流されるので緊急対応医療機関等連絡先に連絡し(時間外も対応可能)受診を促す必要があるということです。

【Aランク疾患名】

- ① メープルシロップ尿症
- ② メチルマロン酸血症
- ③ プロピオン酸血症
- ④ イソ吉草酸血症
- ⑤ メチルクロトニルグリシン尿症
- ⑥ HMG血症
- ⑦ 複合カルボキシラーゼ欠損症
- ⑧ グルタル酸血症1型
- ⑨ MCAD欠損症
- ⑩ VLCAD欠損症
- ⑪ TFP(LCHAD)欠損症
- ⑫ CPT1欠損症
- ⑬ 先天性副腎過形成症(30年度から追加予定であるCPT2についてもAランクとする)



新生児の命に係わる事なので、検体に係わる者として真摯に受け止め再度、適切な採血方法や採血後の管理など確認していただきたいと思います。

施設★紹介

今回は…「社会医療法人財団 大樹会総合病院 回生病院 産婦人科病棟」です!

報告) 多田鈴子

当病院は、四国と本州を結ぶ玄関口であります香川県坂出市の中心部に位置した急性期病院です。1956年に内科、外科、産婦人科を有する病院として開院致しました。その後60年あまりの時を経て、現在は、一般病床193床、ICU4床、HCU12床、地域包括ケア病床88床、身体合併精神病床51床で運用しております。



「皆さまに愛され信頼される病院」を理念に掲げ、質の高い医療の提供、保健・医療・福祉との連携、予防医療の充実を基本方針として、急性期医療の提供に日々従事しております。

さて、当産婦人科病棟は、全室個室(LDR2床を含む)25床で稼働しており、2017年の分娩件数は518件で内、経陰分娩が434件、帝王切開が84件(16.2%)と精神科と産婦人科を有する総合病院として、地域のクリニックや、精神合併妊婦の受け入れなど、中讃から西讃の周産期の一翼を担っております。

外来で助産師が行う妊婦指導や、妊娠34週目からの両親学級、入院中は育児技術指導(授乳、オムツ交換)産後シェイプアップ、乳房マッサージ等を行っております。当病棟では現在、助産師が、常勤・非常勤等合わせ10名(育休中1名)、看護師が常勤・非常勤合わせ13名が勤務しており、スタッフ間のコミュニケーションの良さが自慢でもあります。お互いが共に協力し、安心して安全な分娩ができるように、そして、褥婦さんが自信を持って退院し、楽しんで育児が出来る事、また、切迫早産で長期入院を余儀なくされた妊婦さんが、無事に産出を迎えられる事を目標に日々看護、指導、援助を行っています。

今後も、様々な合併症を持つ患者さんや、出産・育児に悩む妊婦さんや褥婦さんを、外来から援助していき、地域との連携を密にし、切れ目のない継続看護へと繋げて行きたいと思っております。



～長年の母子訪問活動を定年退職された鈴木綾子さんから～



助産師として50年近く働いてきた中で、この10年は高松市のこにちは赤ちゃん訪問に携わったきま。初めての育児で赤ちゃんどう接してよいか戸惑うママ、泣き止まなくて不安なママ、母乳育児に悩むママなど核家族化が進む中で訪問の必要性を痛感しそれなりに充実感もありました。

また、昨年秋篠宮紀子妃殿下の御臨席のもと厚生労働大臣賞を受賞したことは感慨深いものでありました。これも先輩諸姉皆様のご指導、御鞭撻の賜物と思っております。東京では久しぶりに友と再会し、歌舞伎座、浅草を巡りスカイツリーの上から見た富士山が印象的でした。今後は、マタニティヨーガや親子ヨーガ、キッズヨーガとまだまだ出番はありそうです。また、地域の保健委員会や福祉ネットワークの一員としての仕事も増えてくると思います。

